

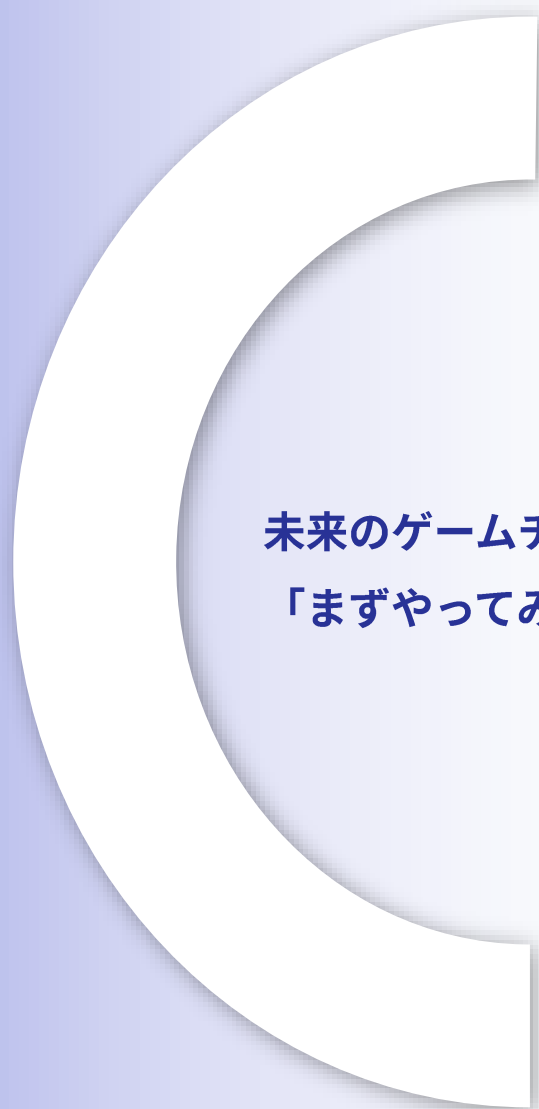


かっこ株式会社 | 証券コード:4166
2026年12月期 第1四半期
決算説明資料

FY2026 First Quarter Financial Results

COPYRIGHT 2026 Cacco Inc.

2026年5月15日



未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに

目次

- 1 2026年12月期 第1四半期 業績
- 2 2026年12月期 通期 業績見通し
- 3 成長戦略
- 4 Appendix

COXIO

2026年12月期 第1四半期 業績

FY2026 First Quarter Financial Results



プロダクトの付加価値向上

サービス拡充

不正検知サービスを「O-PLUX」へ ブランド統合

- 不正ログイン検知サービス「O-MOTION」を「O-PLUX Account Protection」へ名称変更し、国内シェアNo.1※の「O-PLUX」へブランド統合。EC領域で培った知見を融合し、金融機関の「口座開設・ログイン・取引」の一貫した不正対策を網羅的に支援。

不正検知サービス

O-PLUX

「Mail Validator」が特許取得、累計判定件数 200万件突破

- メールアドレスの有効性を判定する独自アルゴリズム（特許第7840545号）が特許取得。金融・不動産・通信など多様な業界で導入が加速し、累計判定件数200万件を突破。

メールチェックサービス

Mail Validator

ECプラットフォーム「CS-Cart」と 「O-PLUX」が連携

- 世界5万件以上の採用実績を持つECプラットフォーム「CS-Cart」と「O-PLUX」が連携を開始。
- システム開発不要でクレジットカード不正利用対策を導入可能となり、幅広いEC事業者の安全な取引環境構築を支援。

事業領域の拡大

M&A

アドフラウド(広告不正クリック)対策サービス 「X-log」の提供開始

- アドフラウド対策サービス「X-log」を譲受・サービス提供開始。広告～決済まで一気通貫の不正対策へ不正対策領域を拡大。

アドフラウド(広告不正クリック)対策サービス「X-log」事業を譲受し、4月1日より提供を開始。
 本サービスにより、Web広告の不正クリックの検知により広告費の無駄を削減することが可能となり、当社がこれまで提供してきた「O-PLUX」と合わせ、広告からログイン、決済に至るまで、オンラインビジネスにおける不正対策をシームレスに提供できる体制に。



✳️「入口から出口まで」をシームレスに保護

これまでの強みであったログイン・決済時の不正検知サービス「O-PLUX」に加え、集客の入口であるWeb広告の不正クリックを防ぐ「X-log」をラインナップに。これにより、「広告不正の防止」から「決済被害の防止」まで一気通貫で支援する、包括的な不正対策プラットフォームへと進化。

売上高は堅調に推移

FY26 1Q売上高は216百万円となり、YoY+13.7%。

主因は不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数の拡大。「O-PLUX Payment Protection」（不正決済 / 注文対策）、データサイエンスサービスの堅調な伸長も寄与。

営業赤字は順調に縮小

FY26 1Q営業利益は▲23百万円となり、前年同期（▲32百万円）から赤字幅縮小。

不正検知サービス「O-PLUX」の導入が進捗、ストック収益が伸長

前期より進めている「ドメイン単位での市場開拓戦略」をさらに推進した結果、EC・金融業界へ「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数が拡大。その結果、FY26 1Qのストック収益※は184百万円（YoY+22.3%）、ストック収益比率は85.4%（YoY+6.0pt）と売上高の伸びを上回るペースでストック収益が伸長。

※ストック収益=不正検知サービス「O-PLUX」の定額課金である月額料金+審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）、SaaS型BNPLシステム売上を除く

2026年12月期 第1四半期 | 業績数値サマリ

FY26 1Q
売上高

216百万円

YoY +13.7%
計画達成率 24.0%

FY26 1Q
営業利益

▲23百万円

YoY - %
計画達成率 - %

FY26 1Q
経常利益

▲23百万円

YoY - %
計画達成率 - %

※営業利益、経常利益のYoY・計画達成率の表記は、株式会社東京証券取引所の決算短信の表記基準にならい「-」としています。

FY26 1Q
不正検知サービスのストック収益※

184百万円

YoY +22.3%

FY26 1Q売上高に占める
不正検知サービスのストック収益比率

85.4%

YoY +6.0pt

FY26 1Q
不正検知サービス解約率

0.15%

YoY ▲0.25pt

※定額課金である月額料金+審査件数に応じた従量課金である審査料金

売上高

216 百万円 (YoY +13.7%)

(計画達成率 24.0%)

営業利益

▲23 百万円 (YoY -%)

(計画達成率 -%)

経常利益

▲23 百万円 (YoY -%)

(計画達成率 -%)

(金額単位：百万円)

	FY2023 1Q	FY2024 1Q	FY2025 1Q	FY2026 1Q	YoY 増減	FY2026 計画	計画 達成率
売上高	263	166	190	216	+13.7%	900	24.0%
(不正検知サービス売上高)	222	128	159	189	+18.9%	801	23.7%
営業利益	29	▲77	▲32	▲23	-	▲112	-
(営業利益率)	11.4%	▲46.3%	▲17.3%	▲10.7%	-	▲12.5%	-
経常利益	29	▲77	▲32	▲23	-	▲116	-
(経常利益率)	11.3%	▲46.4%	▲17.0%	▲10.7%	-	▲13.0%	-
当期純利益	19	▲77	▲32	▲23	-	▲117	-

※営業利益、経常利益のYoY・計画達成率の表記は、株式会社東京証券取引所の決算短信の表記基準にならない「-」としています。

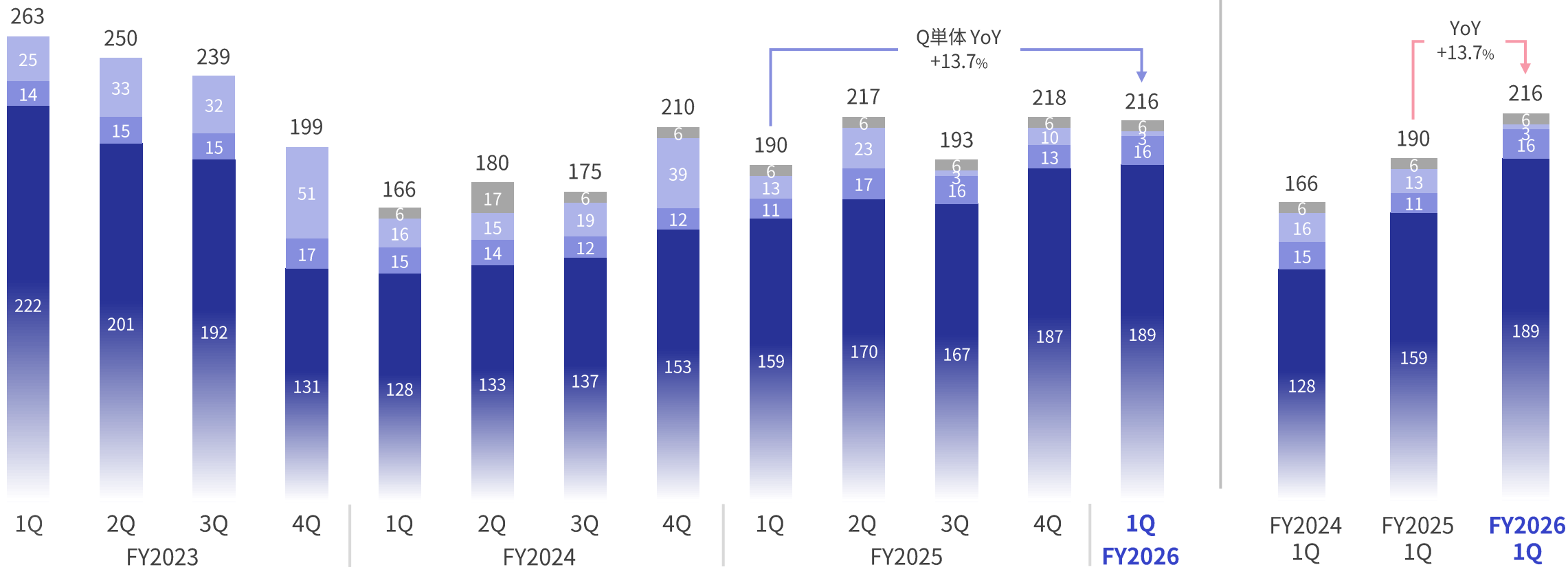
FY26 1Q売上高は216百万円 (YoY+13.7%)、計画達成率24.0%で着地。

- 主因は不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数の拡大。O-PLUX Payment Protection、データサイエンスサービスの順調な伸長も寄与。

売上高推移

(金額単位：百万円)

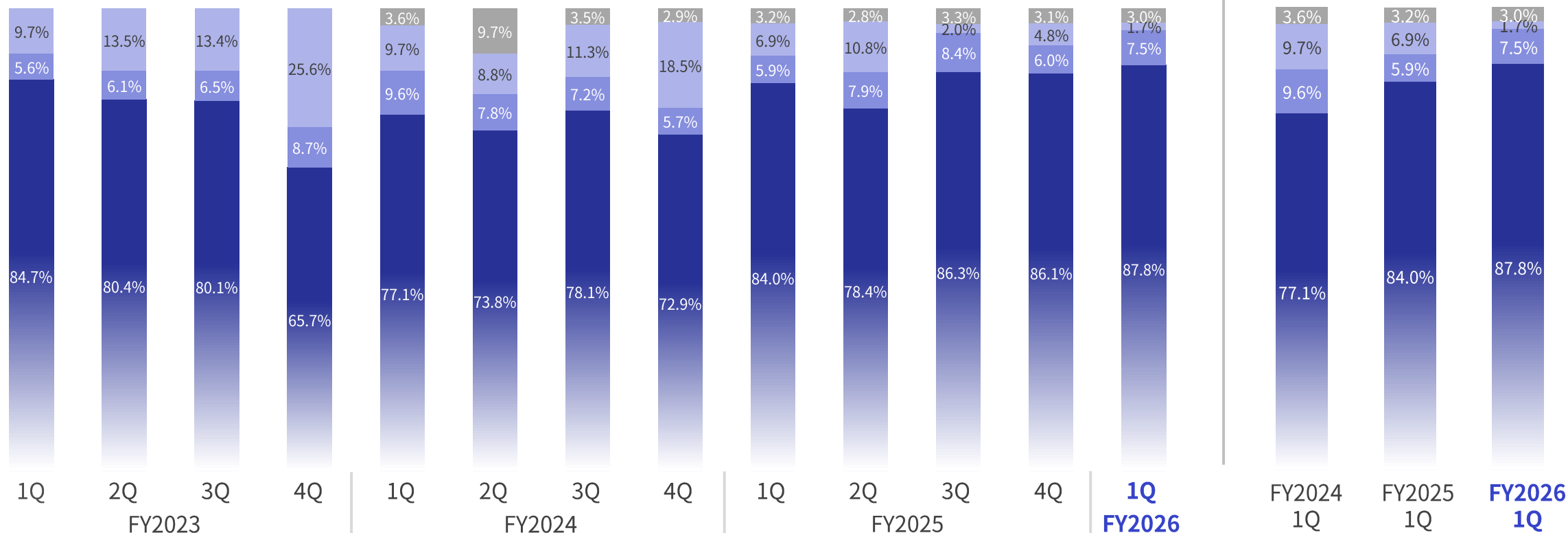
■不正検知サービス ■データサイエンスサービス ■決済コンサルティングサービス ■その他



ストック性の高いメインサービスである不正検知サービスのFY26 1Q売上高構成比は87.8% (YoY+3.8pt) で着地。

サービス別売上高構成比推移

■ 不正検知サービス ■ データサイエンスサービス ■ 決済コンサルティングサービス ■ その他

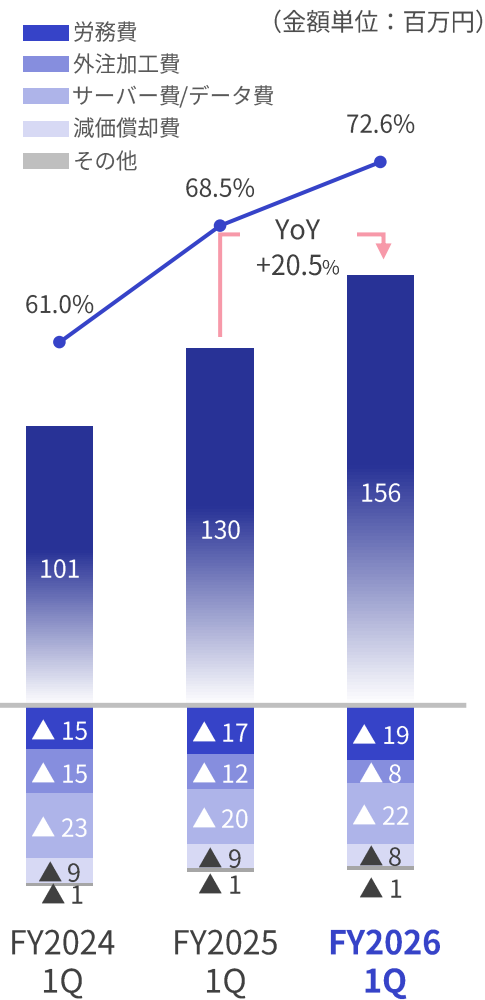
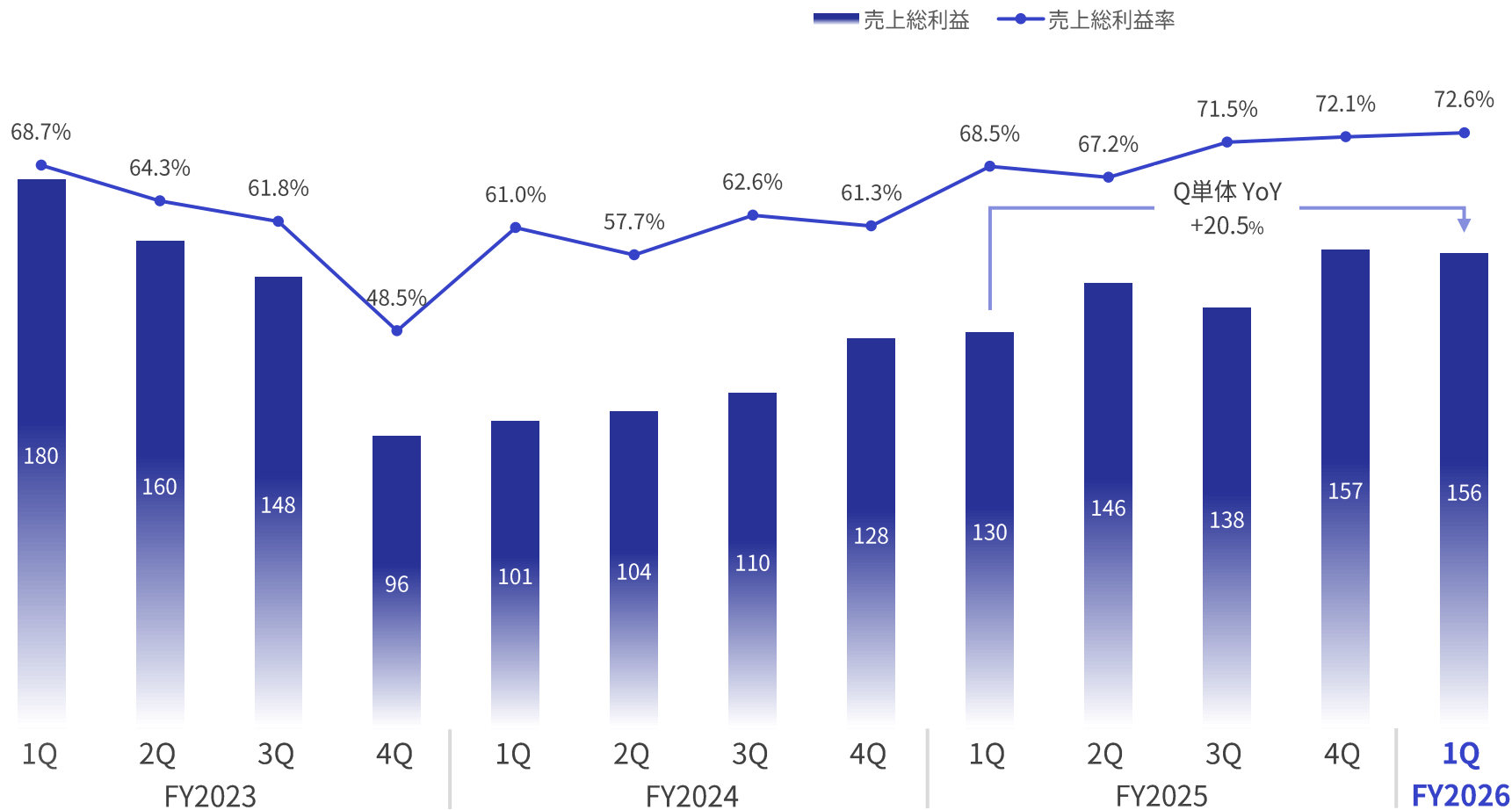


※その他=SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上

FY26 1Q売上総利益は156百万円 (YoY+20.5%)、売上総利益率は72.6% (YoY+4.1pt) で着地。

- 売上高の増加に加え、売上原価は前期同水準を維持し、利益率が向上。

売上総利益推移



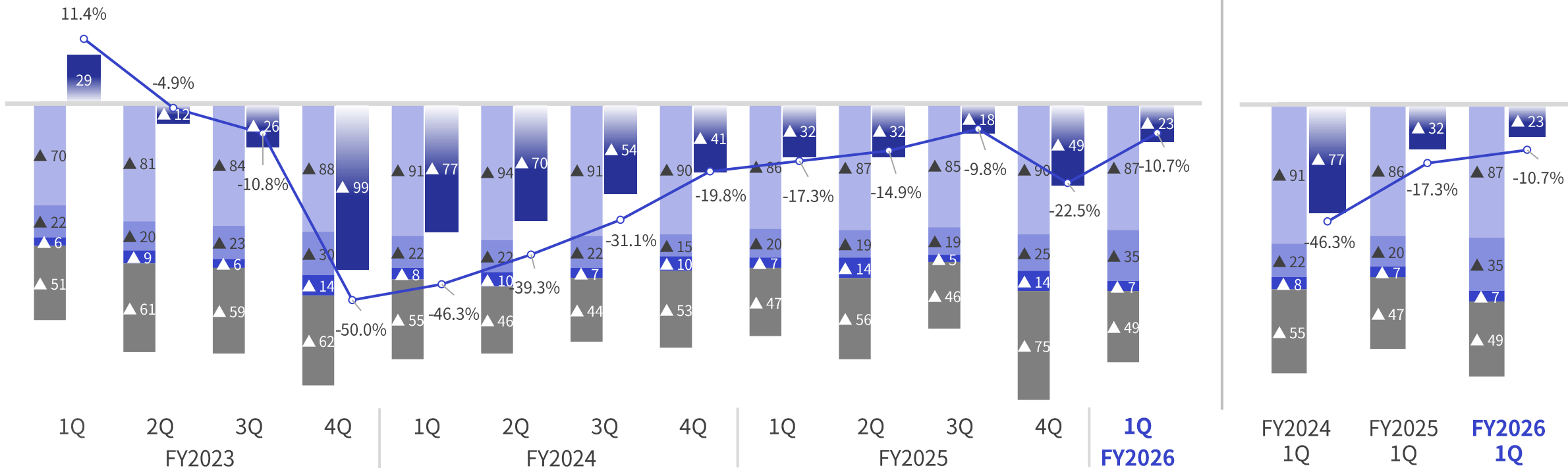
FY26 1Q営業利益は▲23百万円、営業利益率は▲10.7% (YoY+6.6pt) で着地。

- 販管費率は改善：売上総利益の伸長 (+20.5%) が販管費増 (+10.4%) を上回り、販管費率は85.8%→83.4% (▲2.5pt) に改善
- 業務委託費 (+15百万円) が販管費増の主因：不正検知サービスの開発委託、SaaS型BNPL基盤のAWSアップグレード対応 (一過性)

営業利益・販売費及び一般管理費推移

(金額単位：百万円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率 ■ 人件費 ■ 業務委託費 ■ 広告宣伝費 ■ その他 (研究開発費等含)



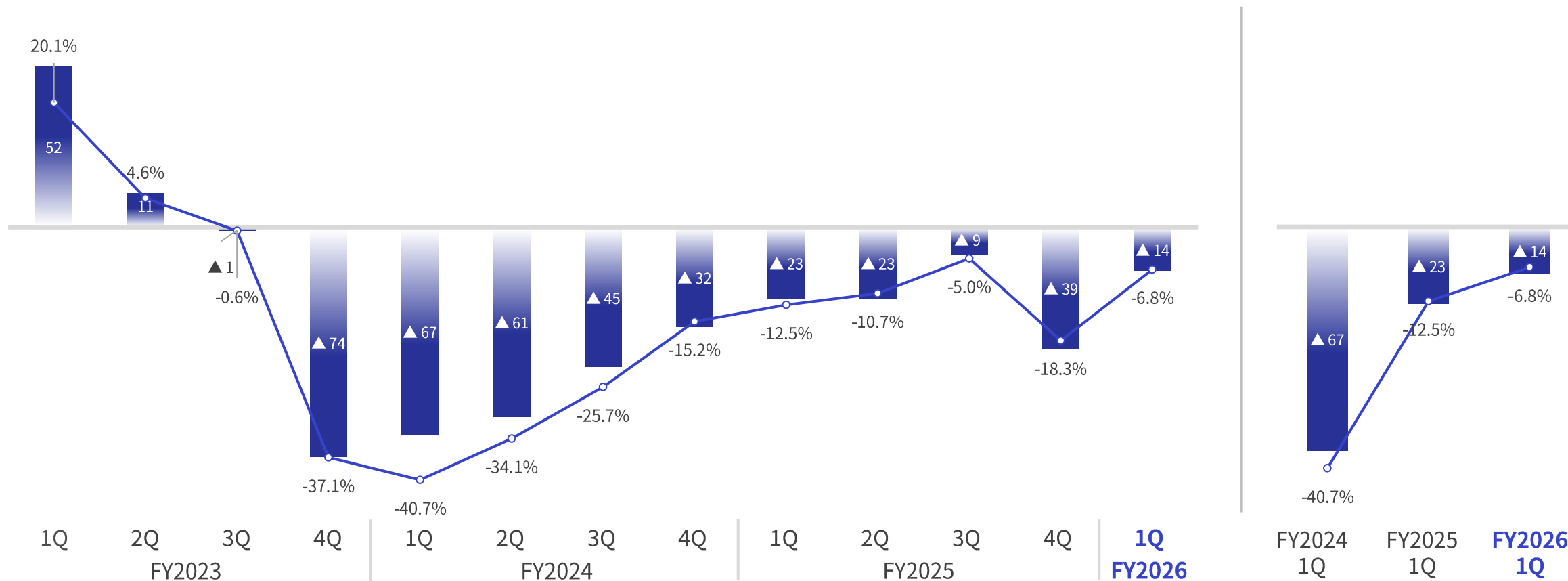
FY26 1QEBITDAは▲14百万円、EBITDAマージンは▲6.8% (YoY+5.7pt)。

- 営業利益とEBITDAの差（減価償却費）は8百万円/四半期。戦略投資が一巡すれば、収益性は更に改善余地を見込む。

EBITDA推移

(金額単位：百万円)

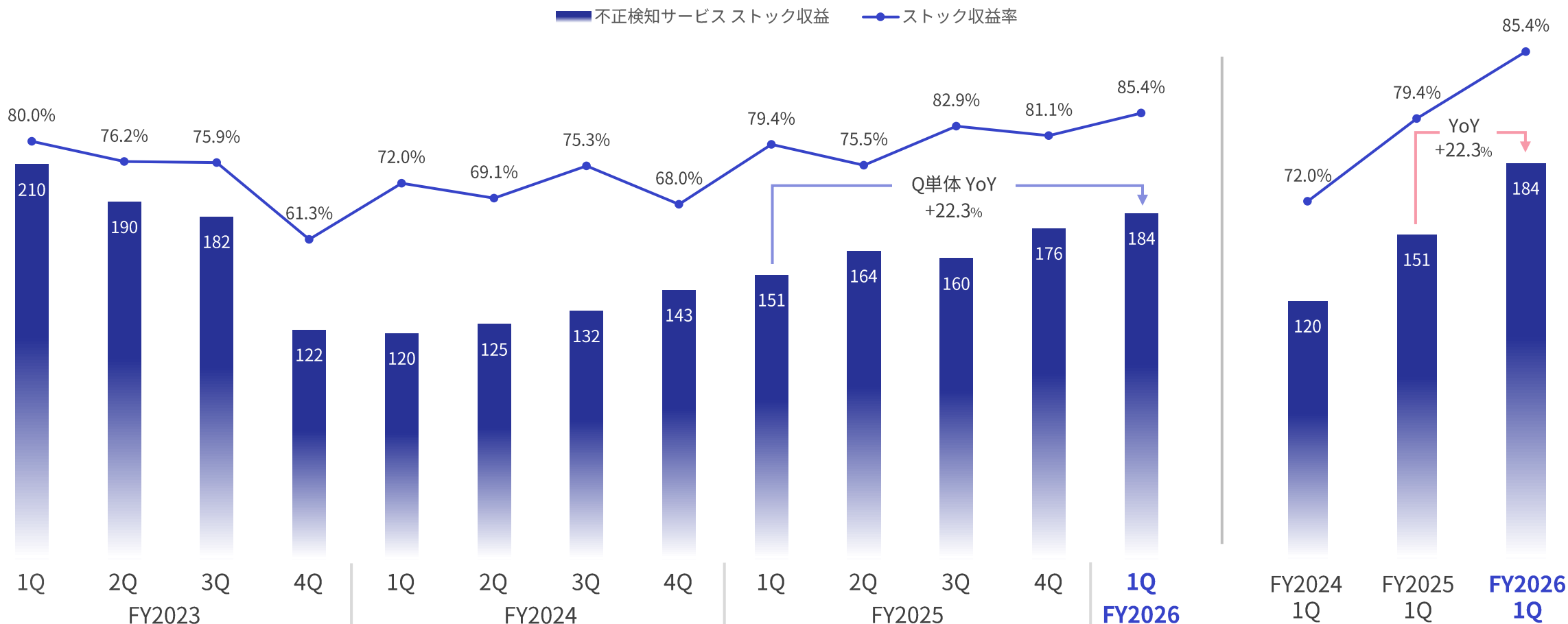
■ EBITDA ○ EBITDAマージン



FY26 1Q不正検知サービスのストック収益は184百万円 (YoY+22.3%)、売上高に占めるストック収益率は85.4% (YoY+6.0pt) で着地。
 - 不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」(不正ログイン対策)の導入数の拡大による売上増(+22百万円)が主因。

「不正検知サービス」のストック収益の推移

(金額単位：百万円)

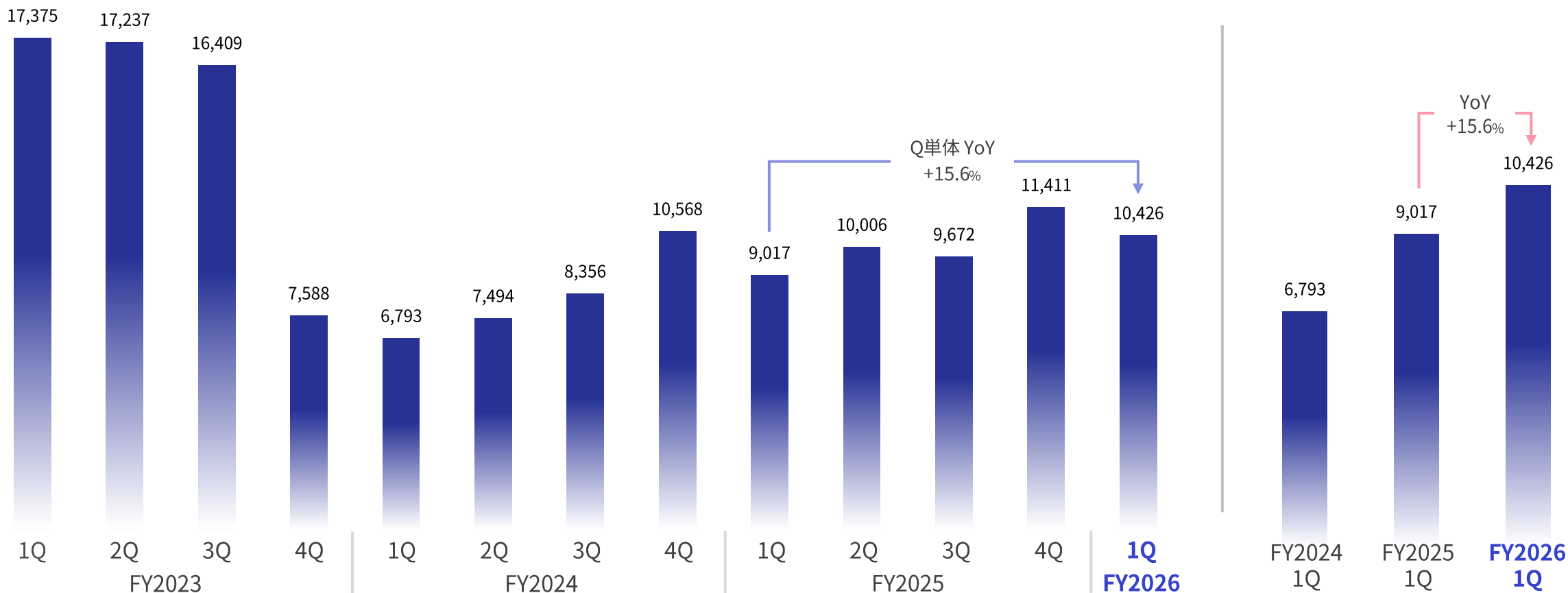


※ストック収益=不正検知サービス「O-PLUX」の定額課金である月額料金+審査件数に応じた従量課金である審査料金(「不正チェッカー」を含む)、SaaS型BNPLシステム売上を除く
 ※ストック収益率=ストック収益÷全体売上高

不正検知サービス「O-PLUX Payment Protection」のFY26 1Q審査件数は、YoY +15.6%と増加を継続。

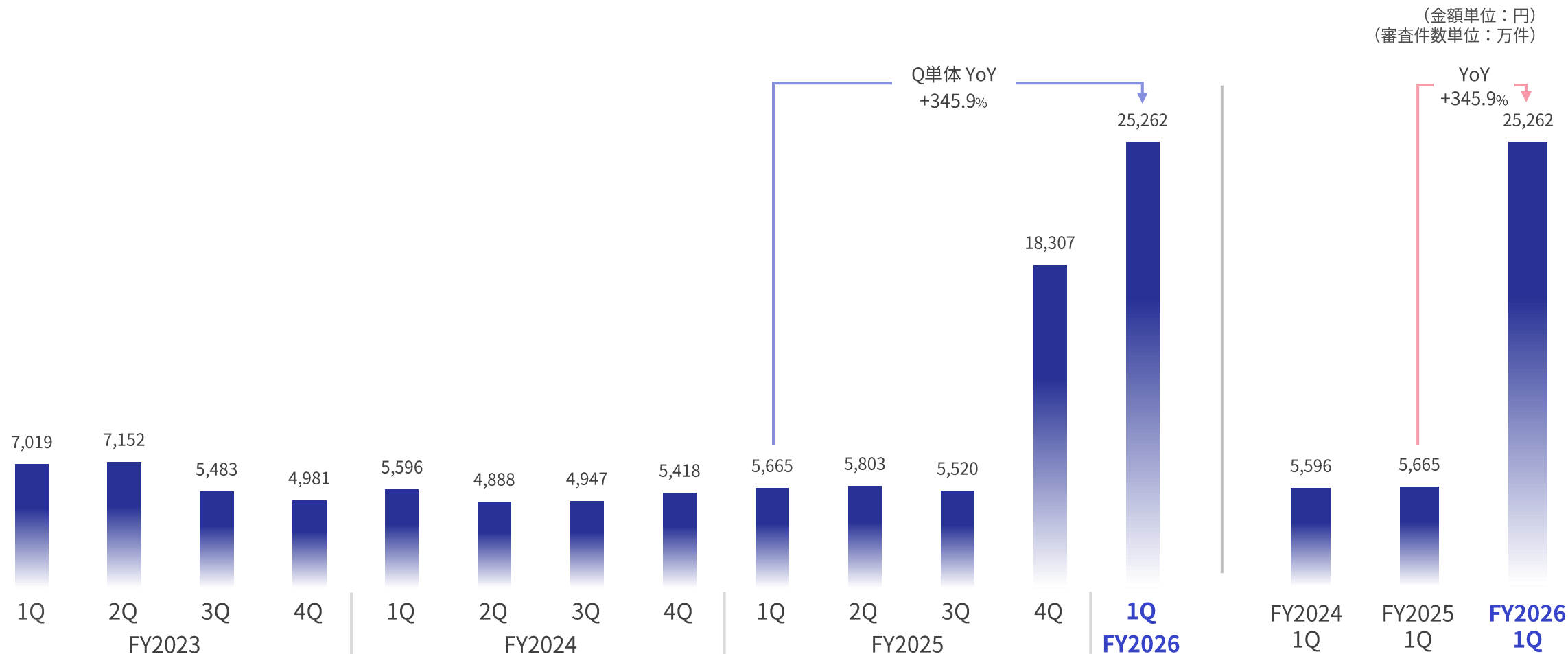
「O-PLUX Payment Protection」の審査件数推移

(金額単位：円)
(審査件数単位：千件)



不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」のFY26 1Q審査件数は、導入数増加によりYoY+345.9%と大きく増加。
 - 不正ログイン対策の需要増により導入数が増加し審査件数が大幅に増加。

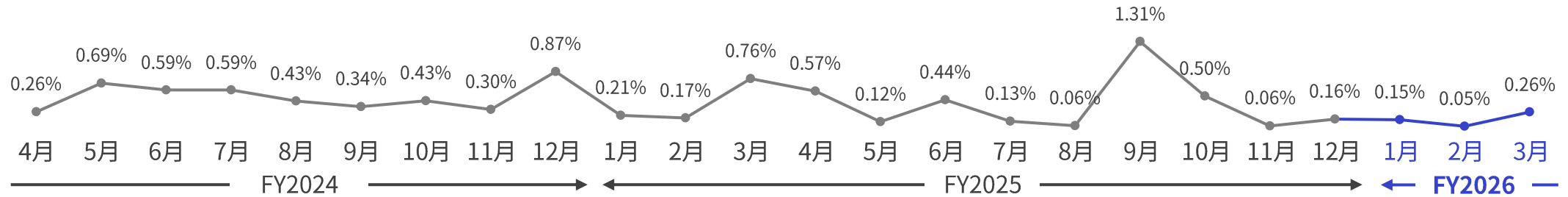
「O-PLUX Account Protection」の審査件数推移



不正検知サービス「O-PLUX」のFY26 累計平均月次解約率は0.15% (YoY▲0.25pt) と引き続き低水準で推移。

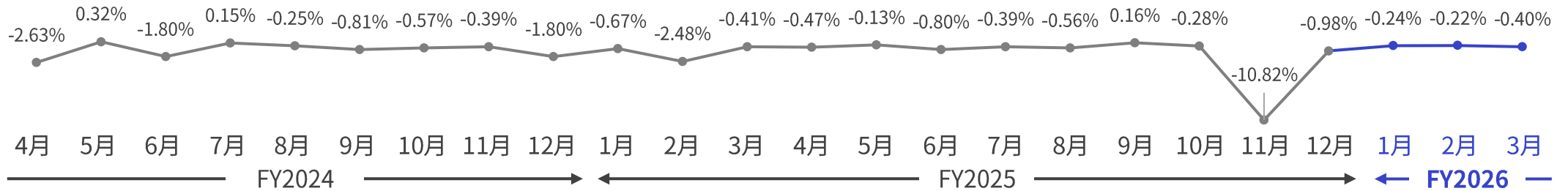
- 2025年9月の解約率上昇は、一部中型加盟店の契約終了によるもの。顧客基盤の分散が進んでいる中での限定的な変動であり、全体の解約率は低位で安定推移。

Gross解約率



※Gross解約率=当月解約ストック収益の年間平均÷当月初時点のストック収益 (SaaS型BNPLシステムを除く)

Net解約率



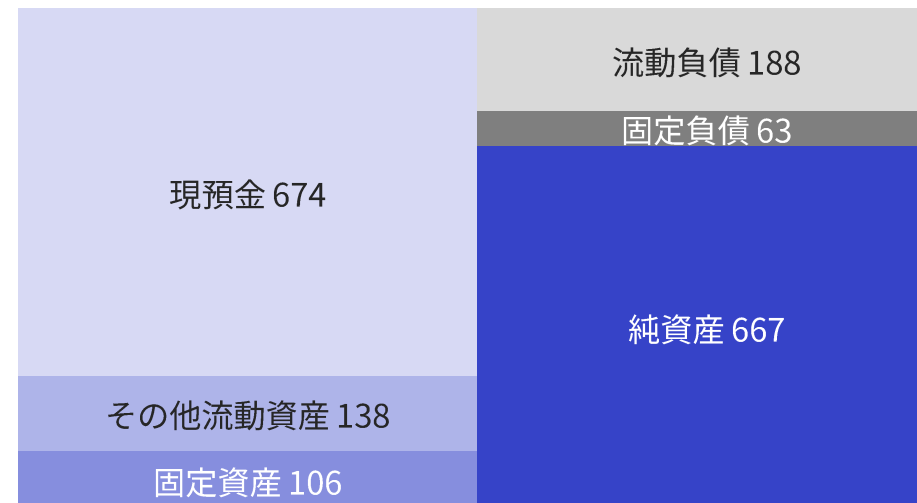
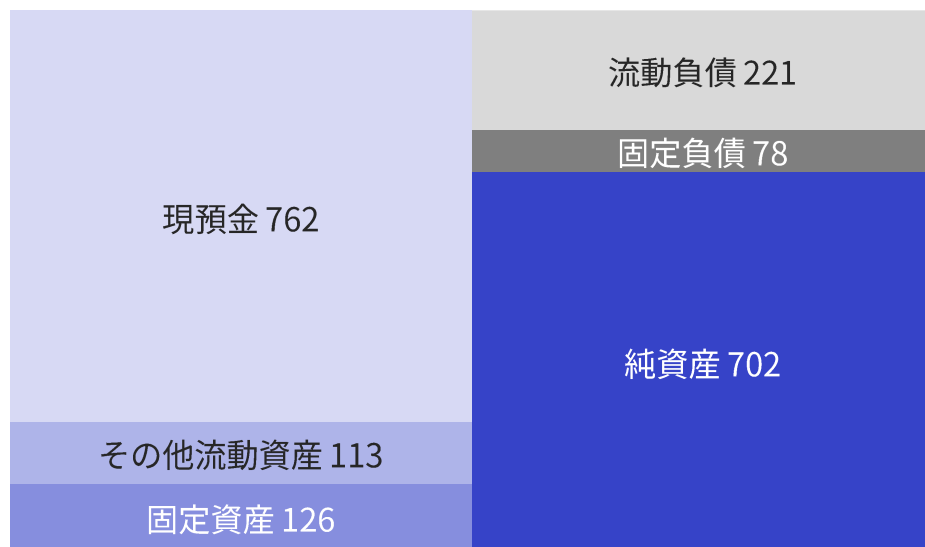
※Net解約率= (当月解約ストック収益の年間平均-当月新規ストック収益) ÷ 当月初時点のストック収益 (SaaS型BNPLシステムを除く)

資産の部においては、現預金の減少により流動資産が減少、ソフトウェア償却・投資有価証券評価の減少により固定資産が減少。
負債の部においては、1年内返済予定の長期借入金の減少により流動負債が減少、長期借入金の減少により固定負債が減少。

(金額単位：百万円)

**FY2025
4Q**

**FY2026
1Q**



自己資本比率
70.1%

自己資本比率
72.6%

COXIO

2026年12月期 通期業績見通し

Forecast Financial Results of FY2026



(金額単位：百万円)

	FY2025 通期実績	FY2026 通期予想	YoY 増減
売上高	819	900	+9.9%
(不正検知サービス売上高)	685	801	+17.0%
営業利益	▲133	▲112	-
(営業利益率)	▲16.3%	▲12.5%	-
経常利益	▲137	▲116	-
(経常利益率)	▲16.7%	▲13.0%	-
当期純利益	▲137	▲117	-
EPS (円)	▲50.45	▲42.95	-

売上高 YoY +9.9%

主力の不正検知サービス売上高がNTTデータとの提携により増加 (YoY+17.0%)、2026年12月期の売上高は900百万円 (YoY+9.9%) を見込む。

営業利益 ▲112百万円

更なる収益拡大に向けたプロダクト開発力の強化を目的として、エンジニアを中心とした採用投資を積極的に実施予定。営業利益は▲112百万円を見込む。

COXIO

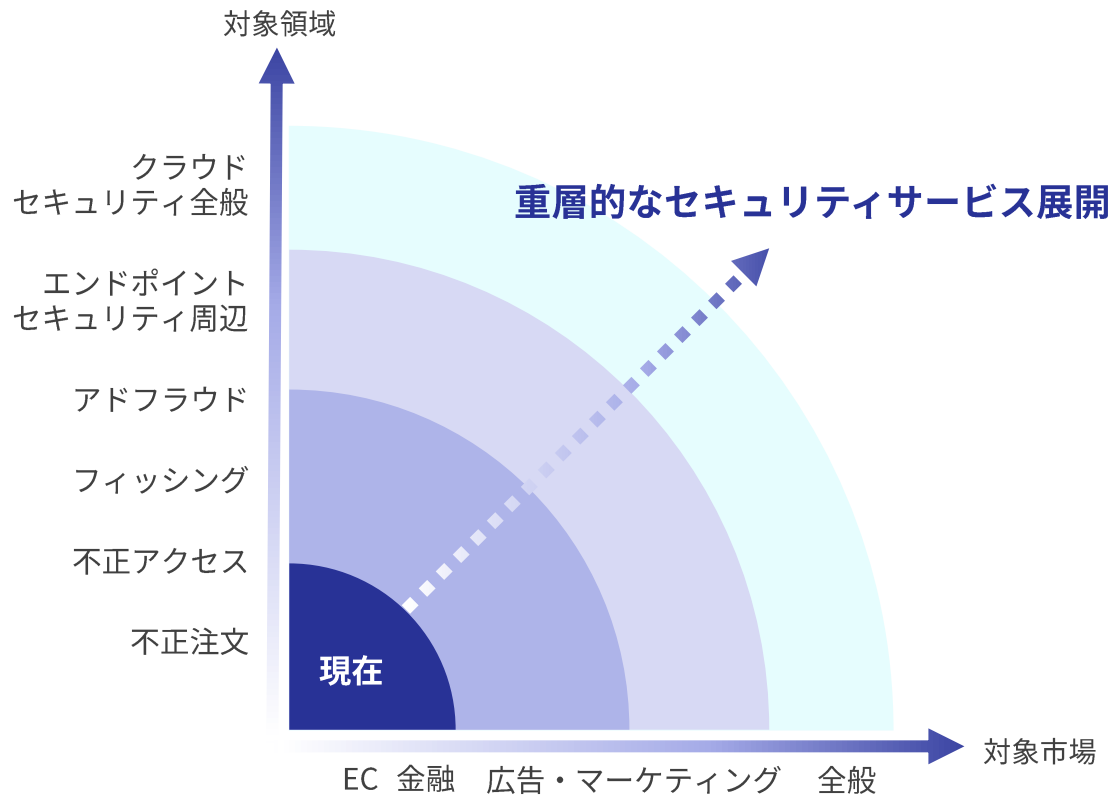
FY2026 成長戦略

FY2026 Growth Strategy

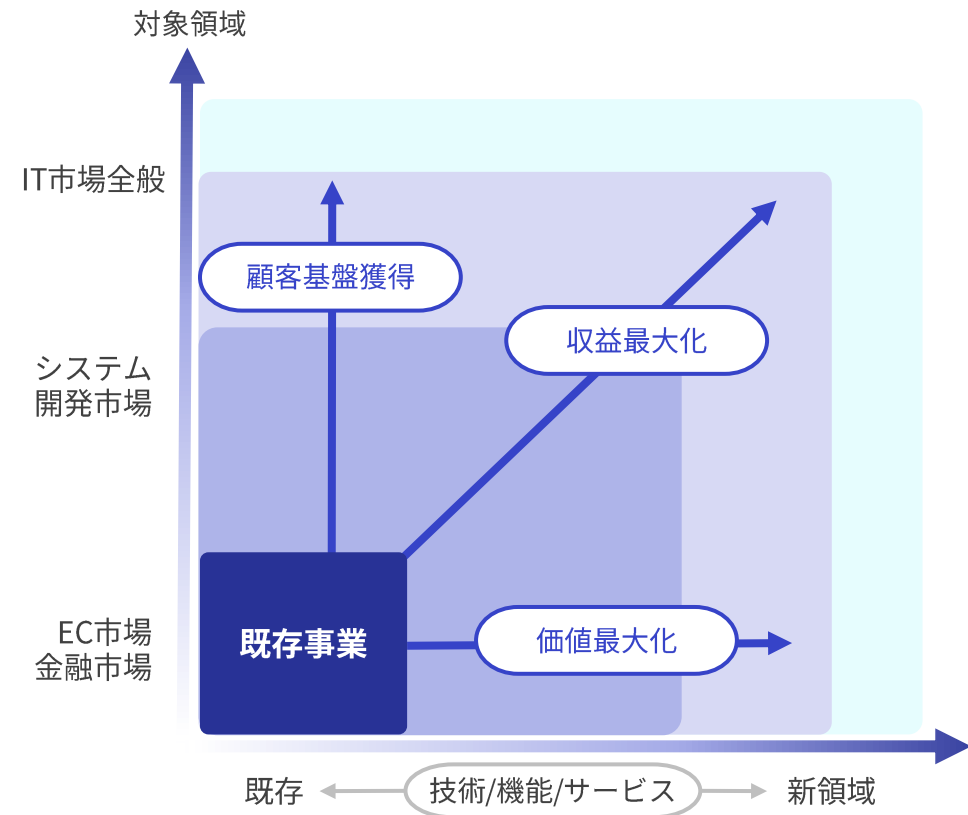


主力である不正検知サービスを基軸としてセキュリティ領域を拡大・深耕し、重層的なセキュリティサービスポートフォリオの構築を目指す。さらに、戦略的な業務提携やM&Aにより事業領域を拡張し、企業価値の最大化を追求していく。

セキュリティ領域拡大



業務提携・M&Aによる事業領域拡大

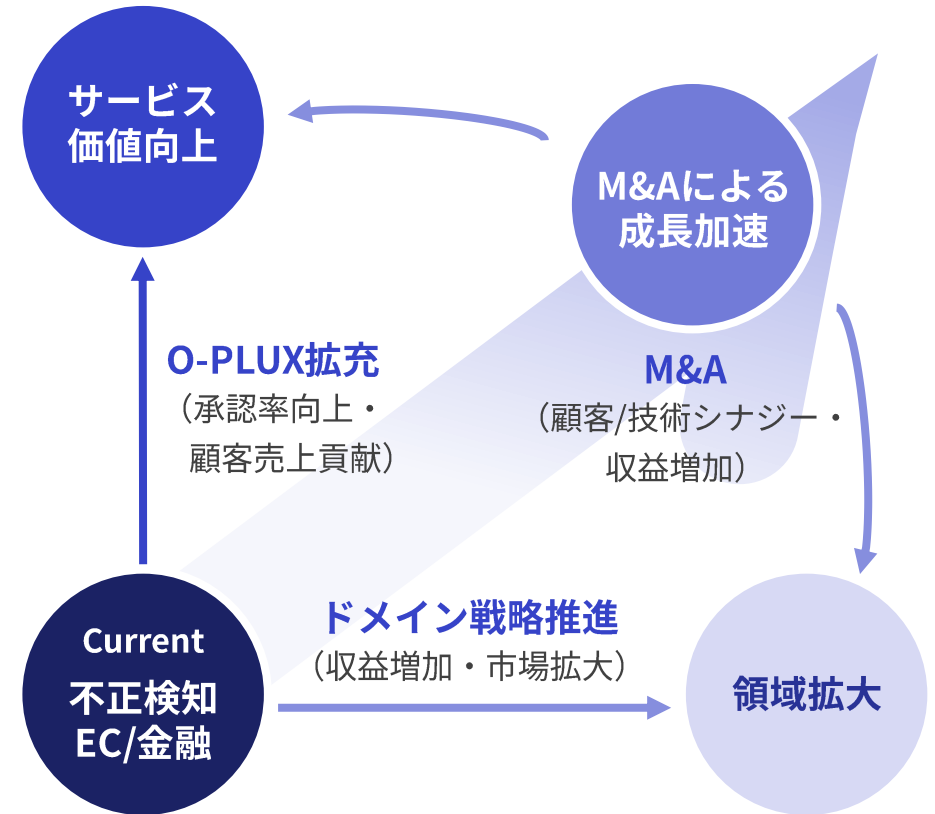


不正検知サービス領域において日本トップのサイバーセキュリティ企業として信頼されるサービスを提供するために「価値向上」と「領域拡大」を続ける

1 **ドメイン単位での市場開拓戦略の更なる推進**
 前期に引き続き、EC・金融・海外・新領域の各ドメインにおいて更なる拡大を推進。

2 **不正検知サービスの機能拡充・シェア拡大**
 クレジットカード決済承認率の向上とEMV-3Dセキュア※1運用パターンの最適化を軸に、競合差別化をはかるとともに、Shopifyアプリ等への対応も強化しサービス価値向上を追求。
 金融機関との取引実績拡大によるリレーション深耕、新規導入拡大を推進。

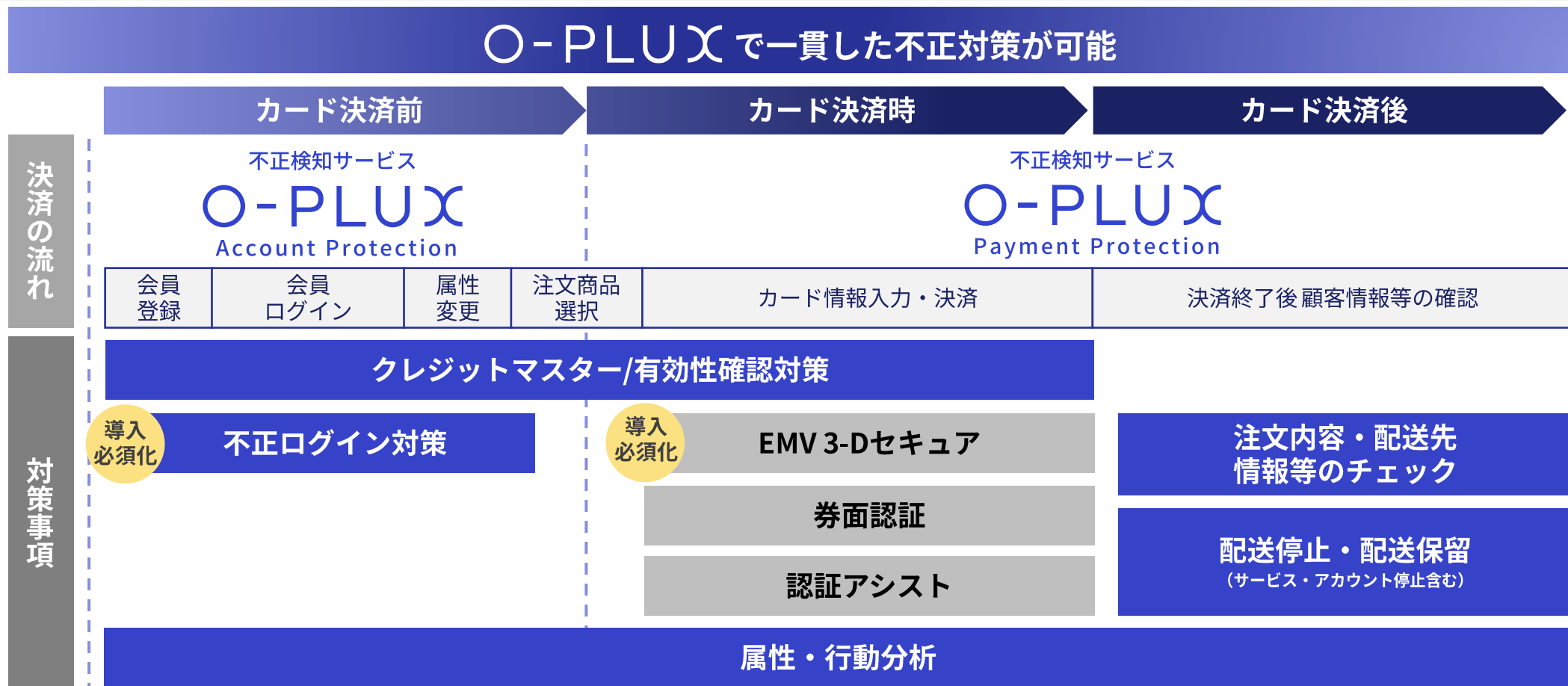
3 **M&A・業務提携による成長加速**
 M&A・業務提携により新規事業領域・既存事業周辺技術を獲得し、成長を加速させる。



※1インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】^{※1}において、EMV 3-Dセキュア^{※2}の導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化されるなど、EC加盟店にとって、クレジットカード取引の流れを「線」として捉え、その線上の各タイミングにおいて適切な不正利用対策を講じることが重要となった。そうした「線の考え方」に基づく一貫した対策が可能なCaccoの不正検知サービスにとって良い市場環境になりつつある。

O-PLUXで一貫した不正対策が可能



※1：クレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会） 2025年3月

※2：EMV 3-Dセキュア：インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

= O-PLUXで対応可能

前期より進めている「ドメイン単位での市場開拓戦略」をさらに推進し、各ドメインにおいて当社サービスを拡大していく。

各ドメインのTAM※1



国内EC不正対策市場 約**240~360**億円※2



国内金融不正対策市場 約**720~960**億円※3



海外不正対策市場 (日本除く) 約**4.3~7.4**兆円※4



不正検知サービス
O-PLUX
Account Protection

不正検知サービス
O-PLUX
Payment Protection

後払い決済導入パッケージ
SaaS-type BNPL system

プロダクト一気通貫のソリューション提供で
市場ドメイン毎にアプローチ

※1: TAM = (Total Addressable Market: 獲得可能な最大市場規模)

※2: IMARC Group 「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」 (2024年) の予測値を基に、1ドル=150円で換算し、ECセグメント比率を仮定して当社が独自に推計。

※3: IMARC Group 「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」、MarketsandMarkets 「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」 の市場データを基に、グローバル市場におけるBFSI (銀行・金融サービス・保険) セグメントの構成比率を適用し、当社が独自に推計。

※4: MarketsandMarkets 「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」 および Research and Markets 「Fraud Detection and Prevention Global Market Report 2025」 の予測値を基に推計。1ドル=150円で換算。

※不正対策=本資料における「不正対策」とは、不正検知・防止ソリューション (ルールベース・AI)、認証・本人確認 (eKYC・3Dセキュア等)、および金融犯罪対策 (AML/CFT) システムを指し、関連するシステム構築 (SI) や運用保守等のサービス費用を含む。

不正被害の深刻化

クレジットカード不正利用被害は500億円規模で高止まりしており、EC事業者における対策ニーズは依然としての高い水準に。



新たな課題「承認率低下」

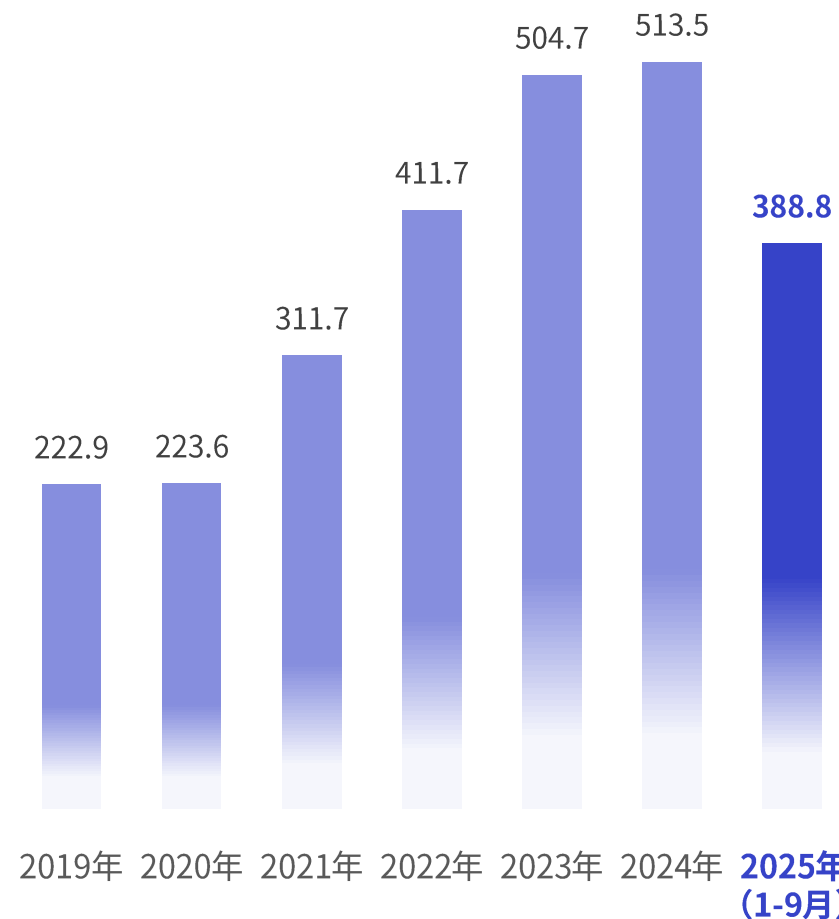
不正利用対策レギュレーション強化※1によりセキュリティ強化（EMV 3-Dセキュア義務化）が進む一方で、不正被害の責任は「加盟店」から「カード会社」へ移行。これによりカード会社が審査基準を厳格化した結果、決済承認率が低下。

「カゴ落ち対応」のニーズ増加

真正なユーザーが本人認証の手間を嫌い、離脱してしまう「カゴ落ち」（＝EC事業者の販売機会損失）が課題化。「不正は止めたいが、売上は落としたいくない」というEC事業者のニーズが高まっている。

クレジットカード不正被害額（番号登用）※2

（単位：億円）



※1：2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会））において、EMV 3-Dセキュアの導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化

※2：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2025年12月

⚠️ 大手ネット証券を中心に不正アクセス被害が発生

2025年初頭から大規模な不正アクセスが急増

被害総額: 2025年7月末までに約6,200億円、年間では約7,393億円。 ※1

被害件数: 不正アクセスを受けた口座は約1万5,000件、不正取引件数は累計9,752件。 ※1

🛡️ 手口の巧妙化による既存認証手段の限界

ダークウェブへ流出した160億件の認証情報を悪用したリスト型攻撃に加え、マルウェアを経由した「遠隔操作」や、AIが生成する高度なフィッシングにより、従来のID/PW認証は期待された役割を果たせなくなっている。

🔄 規制強化と業務負荷

金融庁による監督指針※2等により、内部管理態勢の整備および口座開設・ログイン・取引時におけるセキュリティの確保等が求められ※3対策業務負荷が増大している。

➡️ **多要素認証※4 (MFA) 必須化・不正アクセス検知必須化**

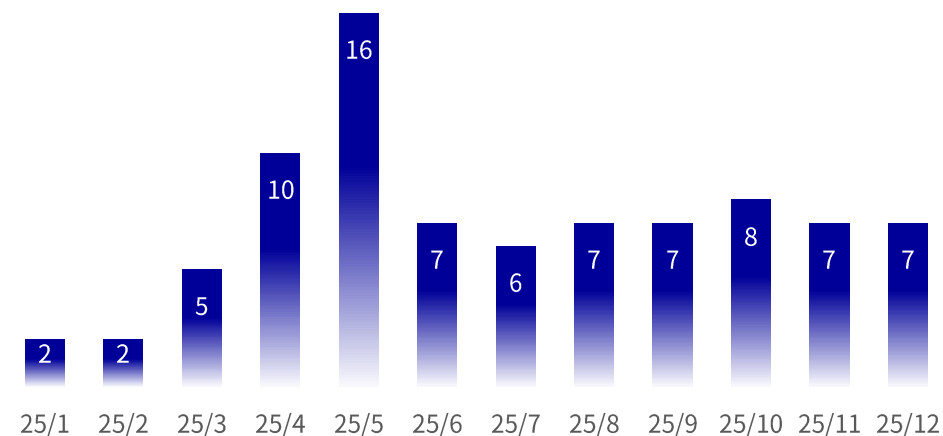
※1: 金融庁「インターネット取引サービスへの不正アクセス・不正取引の発生状況」2026年1月

※2: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月

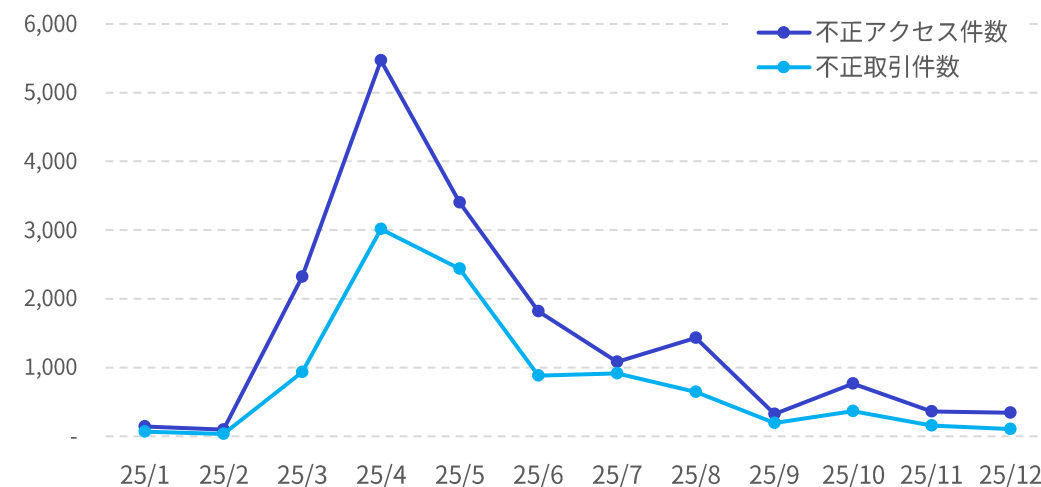
※3: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月 - (監督指針III-2-8-2-2)

※4: 多要素認証 (MFA: Multi-Factor Authentication) : 種類の異なる2つ以上の証拠を組み合わせて本人確認を行うセキュリティの仕組み

— 不正取引が発生した証券会社数推移※1 —



— 不正アクセス・不正取引件数推移※1 —



EC領域

不正検知サービス

O-PLUX
Payment Protection

カード会社と連携し、承認率向上を起点とした「O-PLUXの成長サイクル」でシェア拡大



カード会社と連携しO-PLUX全件審査を推進、不正者取引がカード会社へ流れることを阻止



クレカ決済承認率の向上・カゴ落ち（誤検知）防止



顧客の売上最大化

機会損失を防ぎトップライン向上



O-PLUXニーズ増加

守りだけでなく、「売上増加のツールのひとつ」として認知



O-PLUXの顧客基盤（シェア）の拡大

競合優位性の確立と新規獲得推進、審査データ増加

循環



実現のためのアクション

• EMV-3Dセキュア運用の最適化：

リスクベース認証の適用を支援。真正なユーザーの認証をスキップさせ、購買完了率を高める。

• カード会社との連携：

カード会社と連携し、加盟店が「O-PLUX導入による承認率向上→売上増」を定量的に実感できる環境を構築。

• 国内No.1の導入実績を活かした運用提案：

画一的なシステム提供ではなく、国内の不正傾向・商習慣に精通した当社独自の「きめ細やかで柔軟な運用チューニング」で承認率向上を実現する。

 金融領域

不正検知サービス

O-PLUS

最新の金融業界での不正手口に対応し、
金融機関のセキュリティ対策パートナーとしてシェア拡大を図る



金融特化の機能拡充

- 遠隔操作
- 危険国からのアクセス検知
- 外部DB連携の拡充



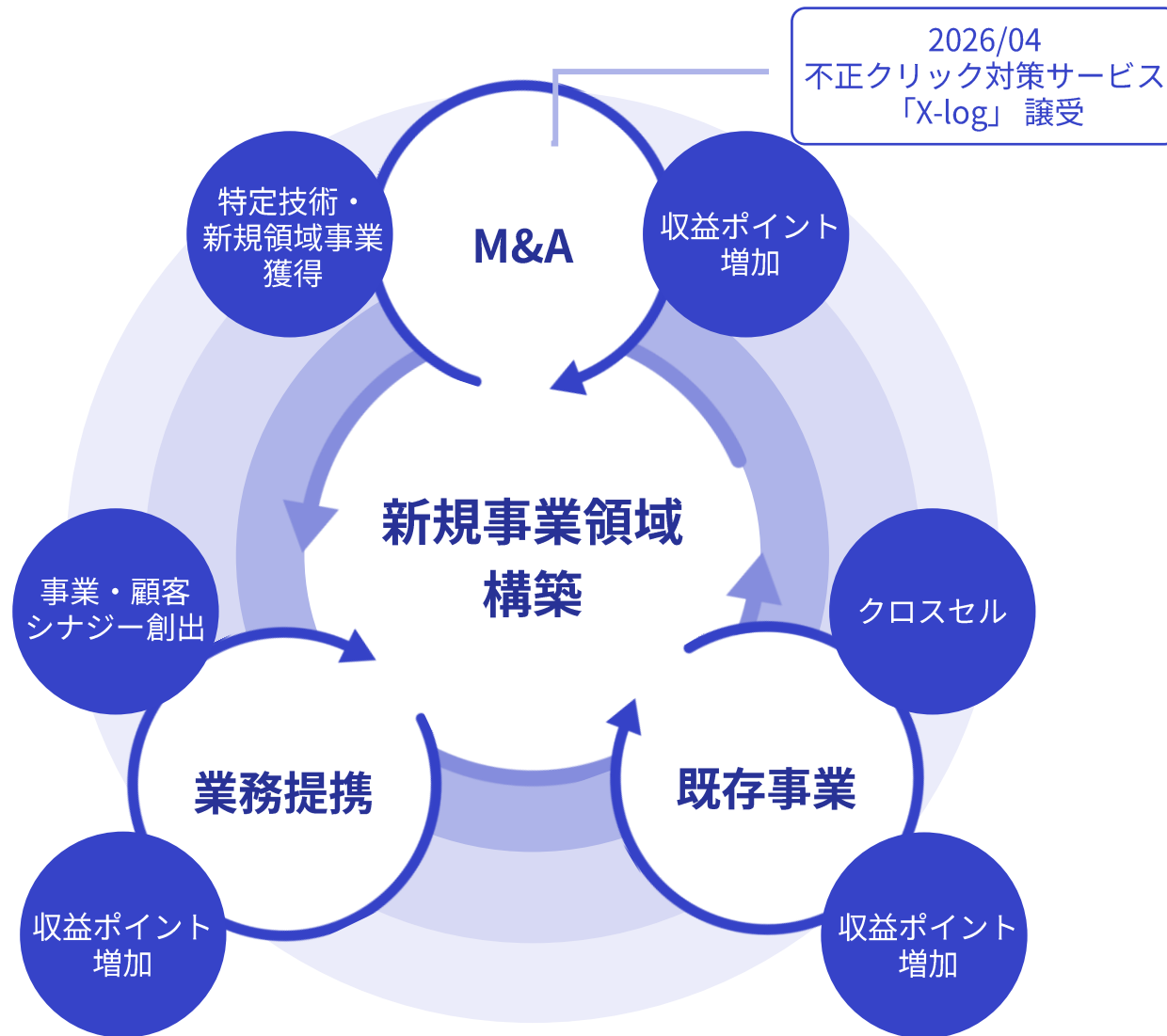
一気通貫の対策訴求

口座開設審査 → ログイン → 取引
の入口から利用までをシームレス
に対策可能な体制構築を支援。



コンサルティング支援

- 内部管理態勢の構築支援
- 不正検知に特化したデータサイエンス支援



収益・技術・事業の3軸のシナジー

- 収益拡大：**
M&Aにより新たな収益源を即座に獲得し、トップラインの非連続な成長をめざす。
- 既存事業シナジー：**
獲得した事業領域の顧客基盤・商材を既存のEC・金融ドメインと相互にクロスセルし、収益基盤の拡張を図る。
- 技術シナジー：**
M&Aによって特定技術を時間をかけずに獲得・実装を行うことで、開発ロードマップを短縮し、製品競争力の向上を図る。

COXIO



Appendix



Company profile

会社名	かっこ株式会社 (Cacco Inc.)
所在地	東京都港区元赤坂一丁目5番31号
設立	2011年1月28日
事業内容	SaaS型アルゴリズム提供事業 (不正検知サービス、決済コンサルティングサービス、 データサイエンスサービス)
代表	代表取締役社長 岩井 裕之
上場市場	東京証券取引所グロース市場 (証券コード 4166)
特許	特許第6534255号・特許第6534256号 特許第6860156号・特許第7840545号
認証	ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014 登録番号: IA120255 プライバシーマーク® 第10824248号

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」
をカタチに



Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

Cacco Evolutionary Purposeには、世の中をよりよくしていこうと挑戦する人や企業に寄り添い、日本経済の発展に貢献していきたいという思いが込められています。

創業当時、インターネット取引における不正は少なく、世の中に十分な機能を備えた不正検知サービスもありませんでしたが、私達は、近い将来、ECをはじめとするあらゆるインターネット取引において、多様かつ膨大な不正行為が発生するであろうと考えていました。

それから現在まで、私達の予想通り、不正行為はあらゆるインターネット取引において発生しており、その手口はより複雑化するとともに、さらに進化・拡大を続けております。『O-PLUX』は、2012年のリリース以降、進化する脅威にも十分対応できるよう開発を重ねてきた結果、現在では日本国内導入数No.1※のご評価をいただいております。

Caccoは、今後も、セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術で新しい価値を作り上げる会社として、Cacco Evolutionary Purposeを実現し、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点

広告集客からログイン、決済、データ活用まで、安全なネットインフラ構築をワンストップで支援

01 ADVERTISEMENT



Web広告・集客

02 LOGIN CHECK



EC・金融機関・会員サイト

03 TRANSACTION



受注・決済システム

04 ANALYSIS



不正傾向・購買需要分析

NEW

X-log

AI・独自のアルゴリズムが広告不正クリック（アドフラウド）を解析し自動ブロック。アドフラウドによる広告費の無駄をリアルタイムで削減。

O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。**国内導入実績No.1**※。

鉄壁PACK forフィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供。

SaaS-type BNPL system

EC初期投資の掛からない後払い決済（BNPL※2）導入パッケージシステムを提供。

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化技術を用いた高度なデータ解析。不正傾向分析のほか、小売業の需要予測や生産計画最適化など、あらゆる分野にデータ分析サービスを提供。



SECURITY

不正検知

ストック収益

O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。

O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

鉄壁PACK for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供。

X-log

Web広告の不正クリック（アドフラウド）を検知し広告費の無駄を削減。



PAYMENT

決済コンサルティング

フロー収益

決済コンサルティングサービス

決済事業者やBNPL導入検討事業者へのシステム提供およびBNPL事業コンサルティングを実施。

※審査エンジンには「O-PLUX」を使用。

ストック収益

SaaS-type BNPL system

初期投資の掛からない後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」を提供。ECショッピングカート・大手EC事業者などにも提供。



DATA SCIENCE

データサイエンス

ストック収益

フロー収益

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化の技術を用いたデータ解析及びアルゴリズムの開発・提供。

- ・ 製造業の最適な生産計画作成
- ・ 小売業の需要予測
- ・ コールセンターの最適シフト作成

など、あらゆる分野にデータサイエンスサービスを提供。

83.6 %

不正検知サービスが
圧倒的な成長ドライバー。

当社の売上の8割以上を占めるのは、ストック型収益を基盤とする「不正検知サービス」。

安定した収益基盤の上に、データサイエンスや決済コンサルティングといった周辺領域が積み上がる構造となっている。



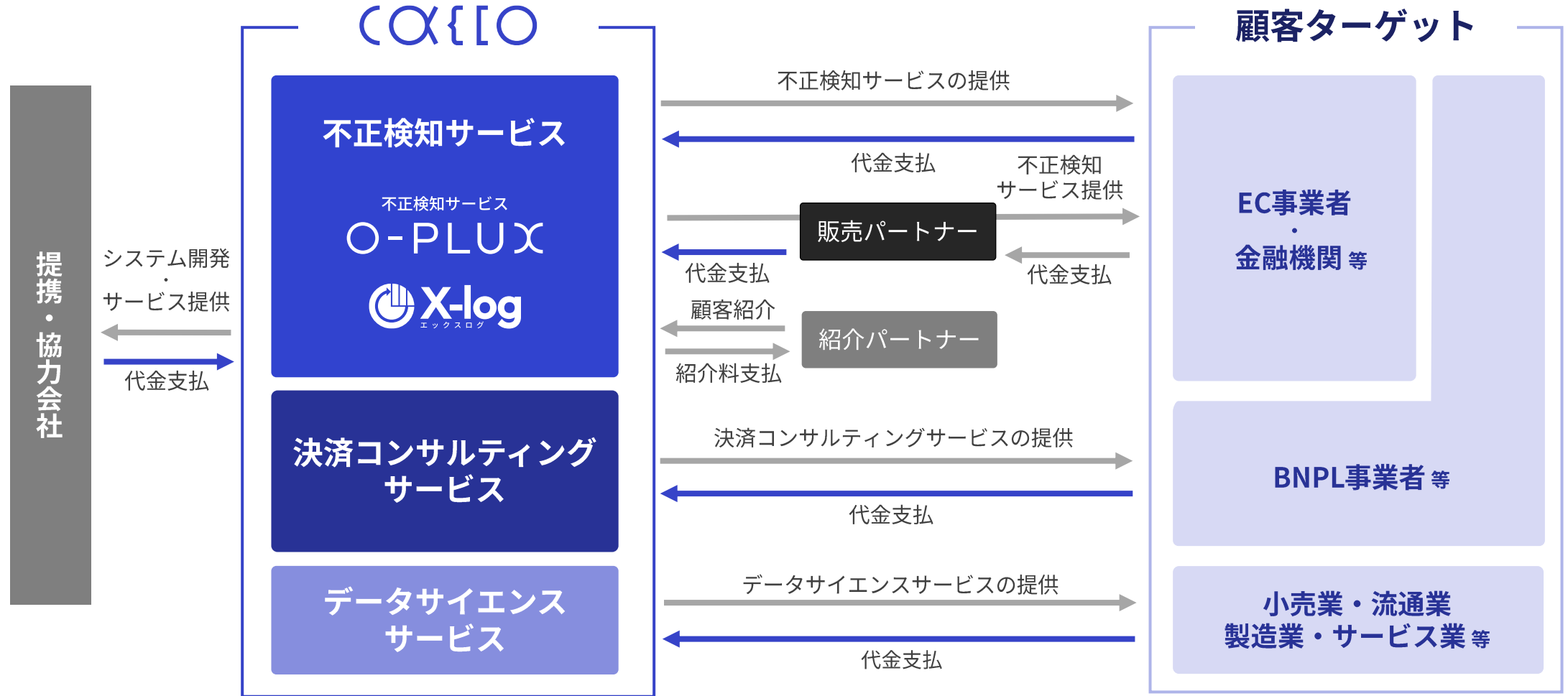
■ 不正検知サービス **83.6%**

■ データサイエンスサービス **7.1%**

■ 決済コンサルティングサービス **6.2%**

■ その他 **3.1%**

※その他=SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上



CLIENT

総合小売企業様

年間流通額：約70億円

課題

ECサイトにおけるクレジットカードの不正利用が多発。
被害額は、**最大1,000万円/月**に達していた。

対策

不正検知サービス「O-PLUX」を導入。
リアルタイム検知による不正防止体制を構築。

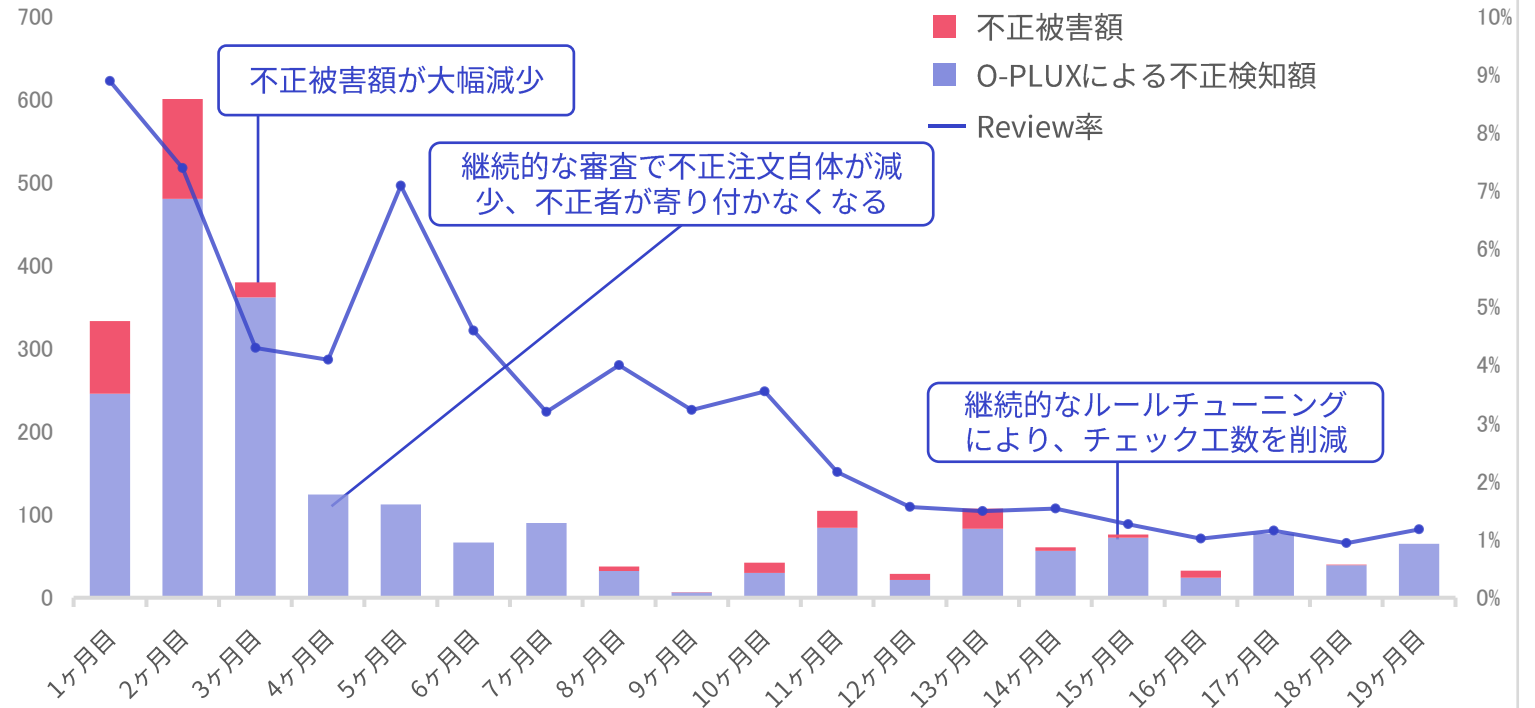
導入成果

2.5 億円相当 (5年間累計)

導入初年度に1億円クレジットカード不正利用被害を未然に検知・防止

導入後の不正被害・検知額推移

(単位：万円)



成果のポイント

導入直後から不正被害額が激減。継続利用により、不正注文自体も沈静化、REVIEW（目視確認）率も低下し業務効率が向上。

※不正を検知した金額とは、審査結果「NG」または審査結果「REVIEW」でカード属性の不一致、出荷前の本人確認等によりチャージバックとなる前に不正確定（ネガティブ登録）された取引の合計金額。
※Review率とは、審査件数全体に対する審査結果「REVIEW」の件数の割合。

株式会社キタムラ様

「O-PLUX」の導入で、目視チェックの限界を突破。
3Dセキュアとの併用で、より強固なセキュリティへ。

⚠ 導入前の課題

3Dセキュアを導入していたものの、クレジットカード不正利用が依然として発生。
目視チェックで対策を行うも、手口の巧妙化により工数が限界に達していた。

✓ 導入後の効果

3Dセキュアを補完する形で、キタムラ様向けにローカライズされた審査ルールを構築。
目視チェックの課題を解消し、業務効率が劇的に向上。



OK判定取引の
不正利用

0 件

目視チェック工数
削減効果

2 名分

株式会社キタムラ様事例インタビュー全文

https://frauddetection.cacco.co.jp/o-plux/case_studies/kitamura/

株式会社イープラス様

追加認証件数を通常の30分の1に削減。
ユーザーの利便性と不正ログイン対策を両立。

⚠ 導入前の課題

全件認証ではユーザーの利便性が低下する懸念があった。
また、人気公演の発売日など、急激なアクセス増大時でもシステムに影響が出ない対策が求められていた。

✓ 導入後の効果

セキュリティを強化しつつ、追加認証の対象を当初想定¹の1/30に抑制。
急激なアクセス時もトラブルなく運用し、導入後のクレーム発生もゼロを実現。

e+ イープラス



追加認証削減

想定¹の **1/30** に

導入後の
クレーム発生

0 件

株式会社イープラス様 事例インタビュー全文
https://frauddetection.cacco.co.jp/case_studies/eplus

ぴあ株式会社 様



リスクベース認証により、疑いのあるユーザーのみ追加認証。
幅広い年齢層の利便性を損なわず、なりすましログインを根絶。

なりすまし
ログイン
0件

⚠ 導入前の課題

短期間のアクセス集中時に、機械的ななりすましログイン攻撃が発生。
一方でユーザーの年齢層が幅広いため、認証の複雑化による利便性低下は避けたい。

✔ 導入後の効果

O-PLUXで機械的なアクセスを検知し、なりすましログインが0件に。
「疑わしい場合のみ」複数要素認証を行うことで、真正ユーザーの利便性を維持。



大手金融機関様

ログの可視化により、モニタリング工数を大幅削減。
端末特定技術で、IPアドレスに依存しない高度な対策を実現。

モニタリング工数
大幅削減

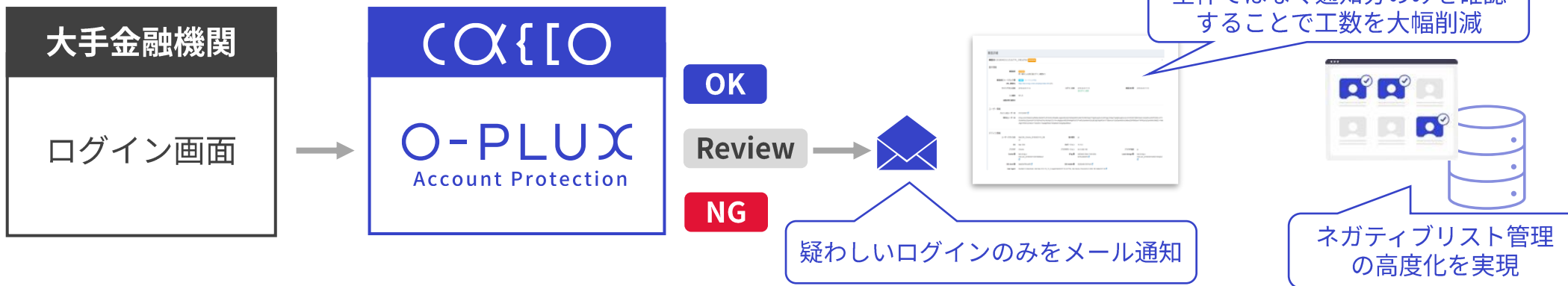
ネガティブリスト
管理の高度化

⚠ 導入前の課題

ログの記録はしていたが可視化されておらず、手動モニタリングに膨大な工数が発生。
IPアドレスのみの制御では限界があり、精度の高いネガティブリスト管理が必要だった。

✔ 導入後の効果

ユーザー毎のアクセスデータを可視化し、疑わしい動きのみを通知することで工数を削減。
端末特定技術により、IPアドレスだけでなく端末特定情報を含めたネガティブリスト管理が実現。

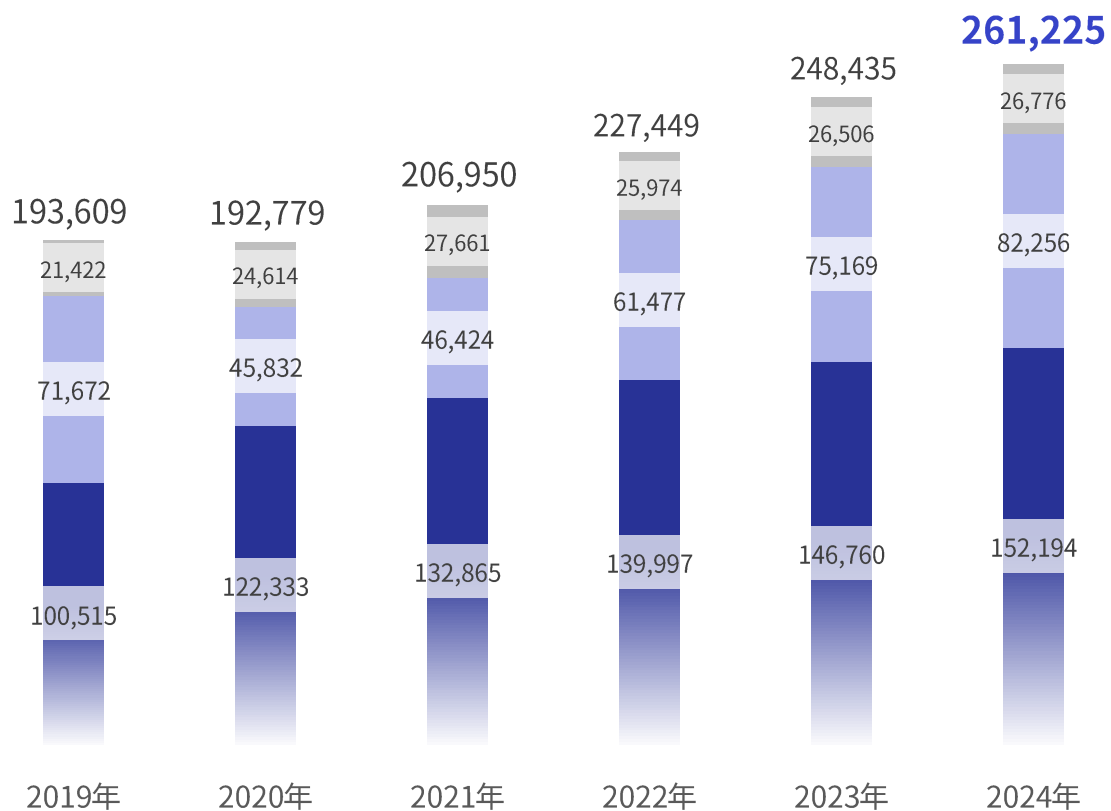


EC市場の成長に比例してクレジットカードの不正被害（番号盗用被害）が拡大。

- 割賦販売法改正、「クレジット・セキュリティ対策ビジョン2025」が公表される等、不正対策に対する社会的需要が高まっている。

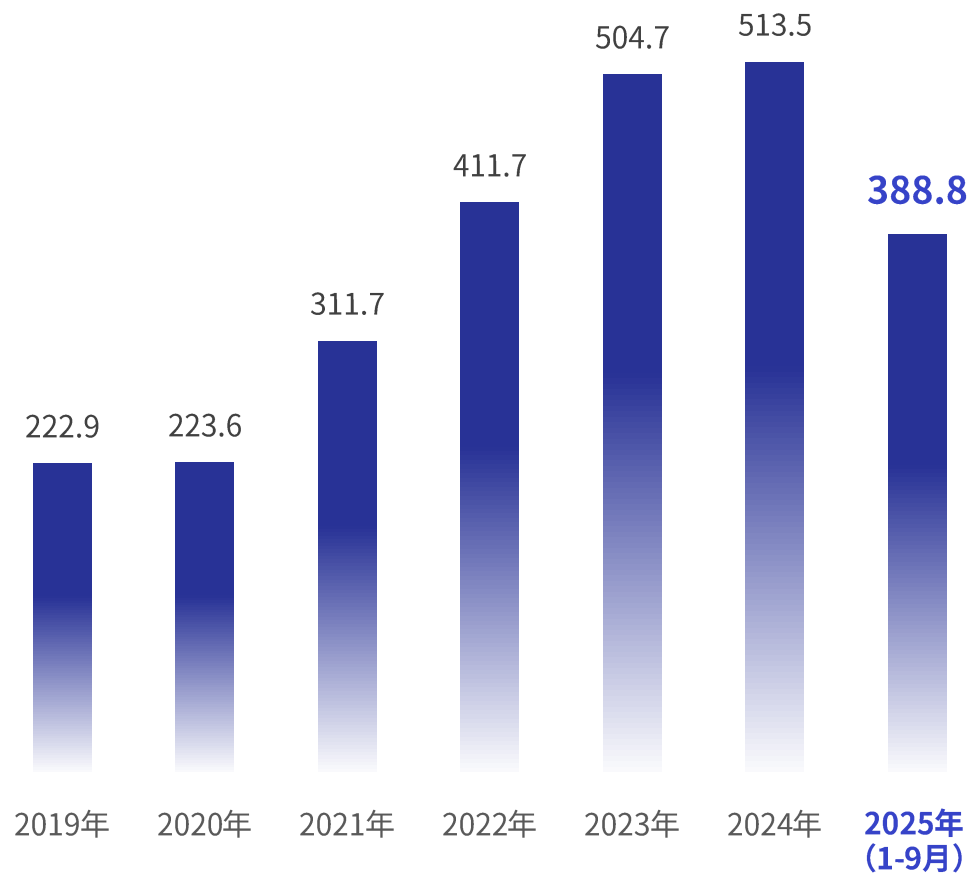
日本のBtoC-EC市場規模

(金額単位：億円)



日本のクレカ不正被害額（番号盗用）

(金額単位：億円)



※ 経済産業省「令和6年度産業経済研究委託事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」
一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2025年12月



TECHNOLOGY

01

データサイエンスノウハウ



セキュリティ技術力

高度なデータ解析技術と、セキュリティ領域における専門的なエンジニアリング力を融合。他社にはない独自のアルゴリズム開発を実現。

取得特許

特許第6534255号
 特許第6534256号
 特許第6860156号
 特許第7840545号



TRACK RECORD

02

EC領域とペイメント領域における当社 サービス導入数 国内No.1の実績

EC領域およびペイメント領域において、圧倒的な導入シェアを獲得。豊富な運用実績が、さらなる検知精度の向上という好循環を生み出す。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点



STOCK REVENUE

03

不正検知サービスの 堅調なストック収益

メインサービスである不正検知サービスは、継続的なストック収益モデル。安定した収益基盤が、全社の成長を牽引している。

ストック収益比率：79.7%

(FY25 通期売上高に占める不正検知サービスのストック収益の割合)

製品における差別化要因

01 大量のデータ保有

国内不正注文データを大量に保有。
導入数国内No.1の実績が支える、圧倒的なデータカバレッジによる高い検知精度。

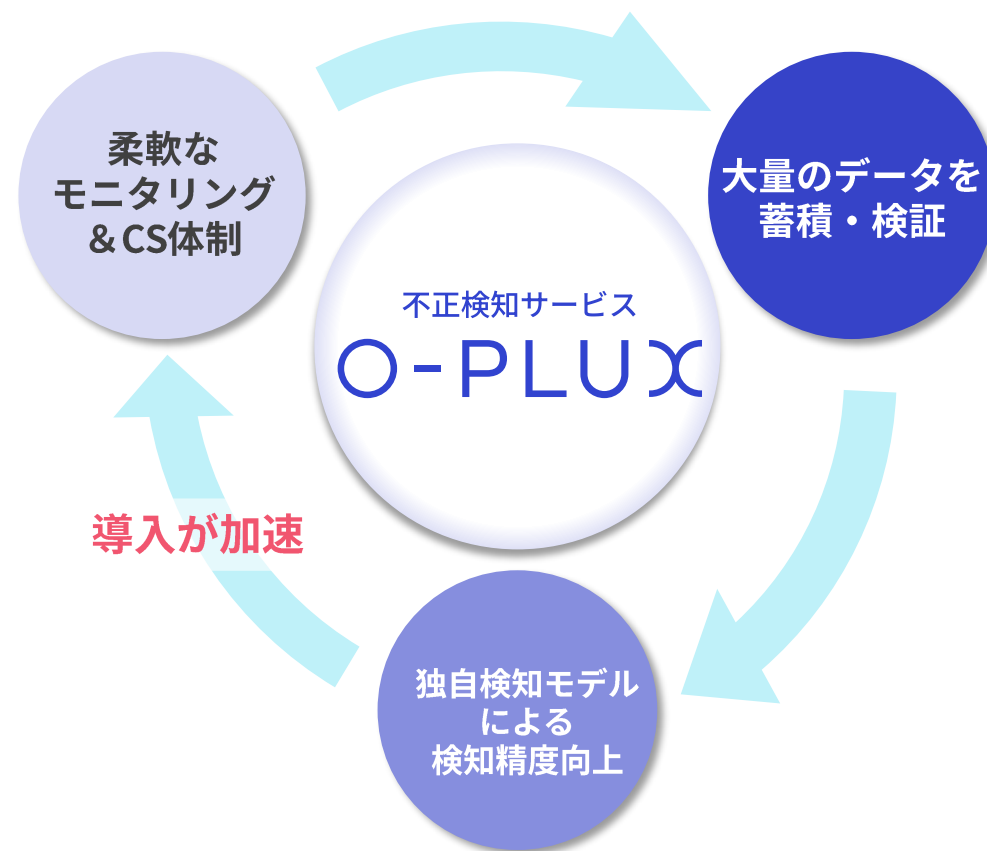
02 独自モデルの構築

データサイエンスとセキュリティの技術・ノウハウを融合。
日本特有の商習慣や不正手口に対応した独自の検知モデルを構築。

03 充実のサポート体制

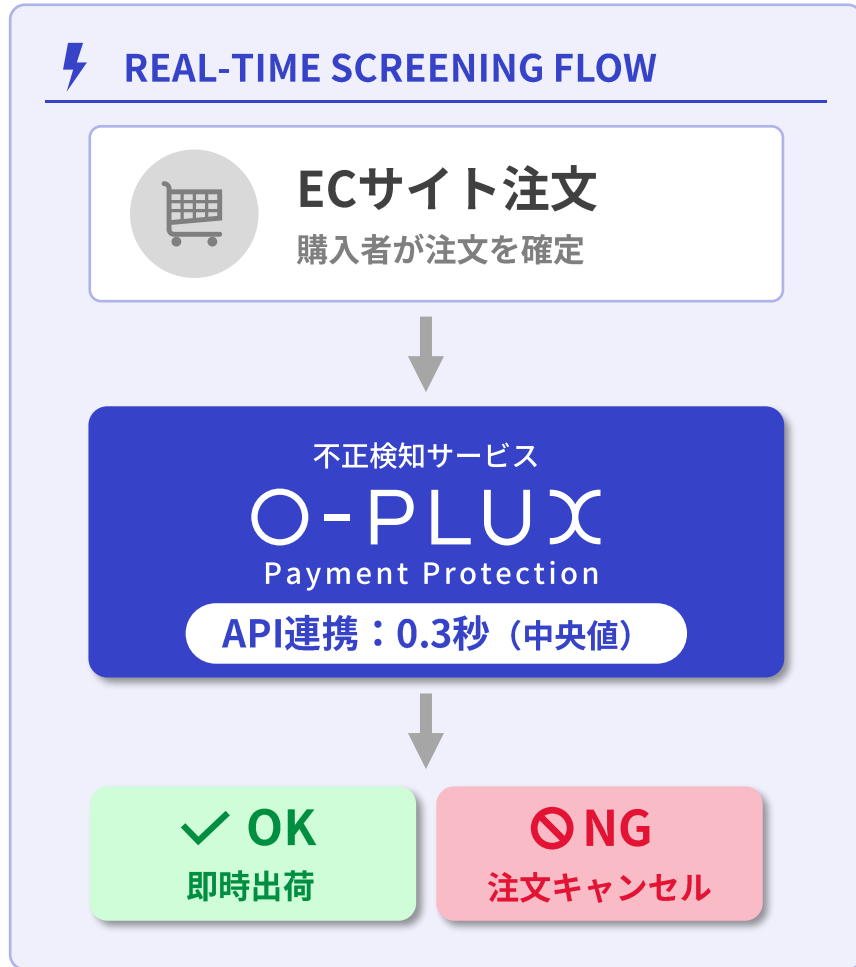
国内自社製品ならではのスピード感&柔軟性でサポート。
導入後も専任チームがルールチューニングや運用を柔軟にサポート。

競争優位性が維持される好循環サイクル



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点

ECにおける代金未払い等の不正注文を独自の審査モデルでリアルタイムに検知



主な審査機能（AIを活用した多角的な判定ロジック）

 メール判定 <ul style="list-style-type: none">メール送信可否判定エイリアスメール判定使い捨て/不審ドメイン判定	 名寄せ処理 <ul style="list-style-type: none">異なる表記の同一住所や姓名を正規化処理して活用氏名とフリガナの不一致判定	 デバイス情報 <ul style="list-style-type: none">IP/Cookieによる同一視判定海外からのアクセス判定言語/タイムゾーンによる外国人のなりすまし判定
 外部DB連携 <ul style="list-style-type: none">住所確認（デタラメな住所）空室判定/ホテル/海外転送電話番号疎通の判定	 行動分析 <ul style="list-style-type: none">短期間の大量購入検知なりすまし特有の挙動分析不審な行動パターンの抽出	 共有ネガティブ <ul style="list-style-type: none">導入累計11万サイトの共有ネガティブDB照合初回限定品の買い回り検知業界横断での不正対策

「O-PLUX Payment Protection」は、あらゆる不正に対応が可能であり、EC事業者を不正被害から守ります。

不正の種類	不正検知サービス O-PLUX Payment Protection	他社A	他社B	他社C	他社D	他社E	他社F	他社G	他社H
チャージバック	✓	○	✕	○	○	○	▲	○	○
不正転売	✓	✕	○	✕	✕	✕	✕	✕	✕
クレジットマスター	✓	○	✕	○	○	○	○	✕	✕
不正アフィリエイト	✓	✕	○	✕	✕	✕	✕	✕	✕

※1 初回限定価格の商材を不正に大量取得され、転売される不正注文

※2 本情報は各サービスサイトや資料を参考に当社独自で纏めた情報です。(当社調べ、2026年4月末日時点)

コスメ・ヘアケア



ホビー



PC / タブレット



チケット



食品 / 健康食品



住まい / インテリア



ペット用品



カメラ / 音響機器



アパレル / スポーツ / アイウェア / 貴金属



ネットスーパー / テレビショッピング / ふるさと納税 / MVNO / ホスティング 他



※掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 (50音順) 2026年4月末日時点

ECカートシステム 他



カード会社・決済代行会社



※サブスクストアとたまごレポートはTAG連携にて標準実装をしています。
 ※2026年4月末日時点。
 ※各カートシステムとの標準実装をご利用いただく際、別途開発費が発生する場合がありますので、各システム会社にご確認をお願い致します。

WEBサイトにアクセスしたユーザーの操作情報、デバイス情報等をリアルタイムに分析。
他人のなりすましを識別し、不正アクセスから生じる不正行為(個人情報漏洩・不正購入etc.)を防止。



不正ログイン

フィッシング/リスト型攻撃



不正登録・申込

不正口座開設/虚偽登録

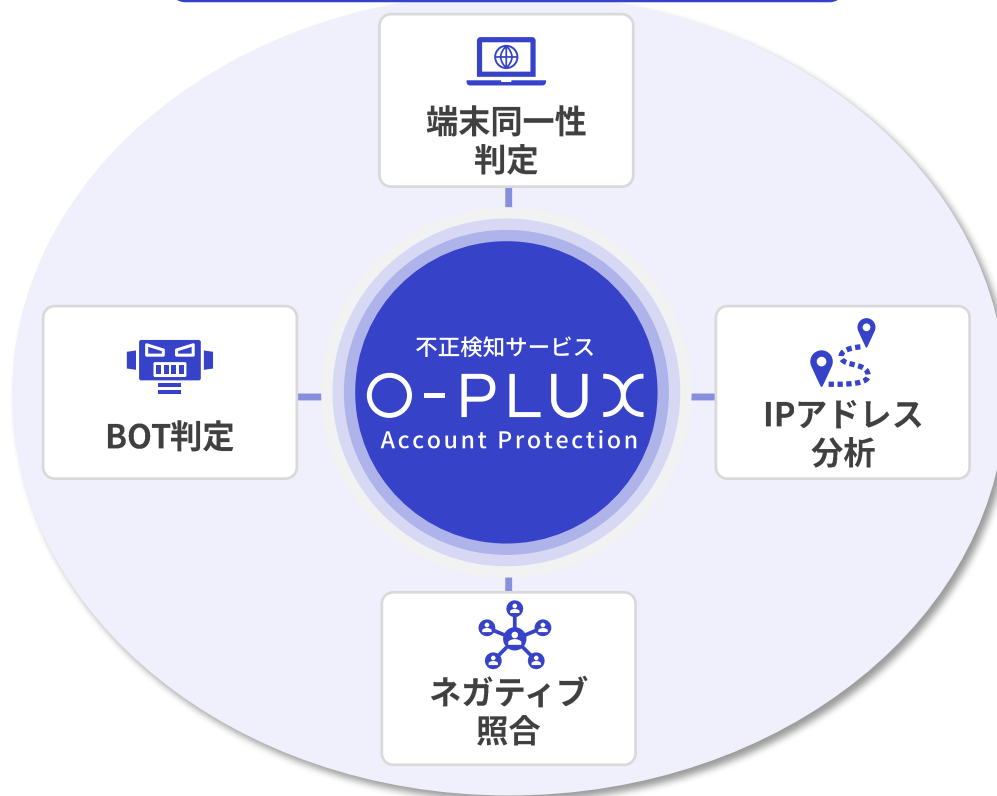


BOT攻撃

自動化プログラムによる攻撃



リアルタイム自動審査



不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」導入企業

チケットサイト、金融機関や各種ポイントサイト・会員サイト等、高度なセキュリティが求められる業界での導入が進捗。

ECサイト

ORBIS

通信販売

Q QVC

※稼働準備中

チケットサイト

e+ イープラス
チケットぴあ

会員サイト


共立製薬
動物と人の進む道を創る

ECカート/パッケージ

 futureshop




消費者金融

ベルーナファイナンス

不動産クラウド
ファンディング

creal
クリアル株式会社

その他社名非公開
導入企業

 銀行
 証券会社
 金融グループ信販会社等

※ 掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 2026年4月末日時点

連携完了後は、検知から対策まで全自動。広告運用者の工数を増やさず広告効果を改善。

検知対象 (広告主の脅威)

X-log解析エンジン

自動対策アクション



付加機能

- 企業分析機能** 固定IPから流入企業を特定 → 競合除外 / 営業リスト化
- 媒体への返金請求支援** 解析データを抽出 → 媒体サポートへ調査依頼 → 返金

導入は3ステップで完了



決済コンサルティングサービス

BNPLの構築・立上げについて、サービス構築、決済システム開発、運用サポートまでワンストップで支援。
審査エンジンは不正検知サービス「O-PLUX」を提供。

》》》 ONE-STOP-SUPPORT



》》》 3つの強み

01
POINT

複数のBNPL事業の立ち上げ・開発実績

- ・ 月間取引数百万件規模の決済システム構築実績
- ・ 事業計画、各種要件定義などの立ち上げサポート
- ・ 事業開始後の運用構築（与信など）までカバー

02
POINT

BNPL運用経験者による専門コンサルティング

BNPLの運用経験豊富なコンサルタントが、お客様の視点に立って最適な提案を実施。システムだけでなくビジネス面も強力的にバックアップ。

03
POINT

国内導入数No.1の「O-PLUX」による不正検知

当社は、シビアな精度が求められる金融・決済分野で不正検知の実績をあげてきました。不正検知サービス「O-PLUX」は国内導入数No.1※を獲得しています。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点

データサイエンスサービス

AI・統計学・数理最適化の技術をもとに、予測のモデル化や機械学習を適用した自動化など、経営に資する数値を最適化するアルゴリズムを開発・提供。

Our Approach



KPI算出

データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、提案までを実施。



データサイエンス分室

自社の一部門の様に、データ分析サービスを月額契約で活用可能。多様な分析ニーズに対応可能。



アルゴリズム開発

経験値に頼らない最適化、自動処理による生産性向上。需要/リスク予測など、利益拡大を追求する専用アルゴリズムを開発。

Case Studies

年商1,190億円の壁材メーカー

最適化

1700製品・12生産ラインにおける複雑な生産計画を自動作成。
生産量の最大化とロス最小化を両立。

1.3億円

年間コスト削減（最大）

年商55億円の文具メーカー

統計・AI

カレンダー・手帳等の需要予測と生産指示アルゴリズムを開発。
欠品による機会損失を最小化。

70%

販売機会損失削減

コールセンター

最適化

翌月の日・時間帯単位での需要を予測し、経営指標、従業員の勤務希望、労働条件といった複数の制約を満たす人員配置計画を自動生成。

0.6億円

年間コスト削減

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料の作成について、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。



CONTACT INFORMATION



ir@cacco.co.jp



<https://cacco.co.jp/ir/>

お問合せ・個別取材のお申込みは、上記よりIR担当までご連絡ください。

C O X { [O

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに